

平成22年度第1回千葉県スポーツ振興審議会 会議録

平成23年1月26日(水)

14時00分～16時20分

於 千葉県総合スポーツセンター

スポーツ科学センター 第2, 第3研修室

<出席委員> (敬称略50音順)

荒井のり子	荒川 昇	石毛 成昌	浦井 孝夫	金澤 篤志
佐藤喜美子	篠田 哲彦	土居陽治郎	藤見 昌弘	牧野由美枝
柳川 尚子	柳澤 久	渡辺千代美		

<出席事務局職員>

千葉県教育委員会	教 育 長	鬼澤 佳弘
教育庁教育振興部体育課	課 長	佐久間嘉宏
主幹兼学校体育室	室 長	北田 昭雄
学校体育室	主 査	長嶋 展章
同	指導主事	向後 依明
スポーツ振興室	主任指導主事	小池 正志
同	指導主事	川崎 浩祐
同	指導主事	加瀬 宏
同	指導主事	黒川 昭宏
同	指導主事	齊藤 隆作
同	指導主事	伊藤 忠幸
学校安全保健課保健給食室	主任指導主事	佐藤 眞弘
国体・全国障害者スポーツ大会局		
大会総務課	課 長	石井 利夫
同	副 主 幹	伊藤 政利
健康福祉部健康づくり支援課	副 主 幹	羽生田和正
同	副 主 査	礒辺 邦彦
健康福祉部高齢者福祉課	副 主 査	木口 綾子
健康福祉部障害福祉課	副 主 幹	在原 進

< 次 第 >

- 1 開 会
- 2 委員紹介
- 3 挨拶
- 4 議 事
- 5 閉 会

< 議 事 >

1 報告事項

- 平成22年度各種大会結果について
 - ア) 全国高等学校総合体育大会
 - イ) 第65回国民体育大会・第10回全国障害者スポーツ大会

それでは最初に、全国高等学校総合体育大会について、ご報告いたします。

本年度のインターハイ、「美ら島沖縄総体2010」は、沖縄県を中心に開催されました。最近3年間は団体及び個人ともに、確実に入賞数は伸びております。

また本年度の、ベスト8を含めた入賞数は、団体で23種目、個人で79種目（男子49・女子30）を数え、平成17年度本県開催の「千葉きらめき総体」での入賞数を上回り、過去最高となる102の入賞となりました。

これまでに、計画的に進めてまいりました、ジュニア選手強化事業の確かな成果と考えております。

団体男子においては、安房高等学校が剣道で、市立船橋高等学校はサッカーで、それぞれ優勝しました。安房高等学校剣道部は、3度目、市立船橋高等学校サッカー部は、7度目の優勝となります。

なお、安房高等学校剣道部は、「ゆめ半島千葉国体」においても優勝し、全国選抜大会、全国総体そして国体にすべて優勝し、史上初となる3冠を果たしました。

そのほか、幕張総合高等学校が、飛込み学校対抗で、3位入賞を果たしております。

団体女子では、千葉東高等学校の登山が準優勝し、磯辺高等学校がヨットで、柏日体高等学校が空手道で、それぞれ3位入賞を果たしました。

個人男子では、9種目において優勝し、6種目で準優勝、17種目で3位、18種目でベスト8という成績を収めました。

個人女子では、5種目において優勝し、3種目で準優勝、9種目で3位、13種目でベスト8という成績を収めました。

また、新体操の千葉大宮高等学校 山口留奈選手は世界選手権出場、水泳の成田高等学校 住吉茉莉選手はジュニアパンパシフィック大会出場など、国際大会においても活躍し、今後の活躍が非常に楽しみな選手がおります。

以上で、全国高等学校総合体育大会の結果報告を終わります。

第65回国民体育大会における千葉県選手団の成績についてご報告いたします。

第65回大会は、冬季大会から始まり、スケート・アイスホッケー競技会が北海道釧路市、スキー競技会が北海道札幌市、本大会は「ゆめ半島千葉国体」として「若潮国体」以来、37年ぶりに本県で開催されました。本県は各季大会に、総勢1,039名の選手団を派遣いたしました。

総合成績でございますが、本県は男女総合2921.5点、女子総合1325.5点をあげ、男女総合成績で決定される「天皇杯」女子総合成績で決定される「皇后杯」、ともに1位となり、本県史上初となる「完全優勝」を達成いたしました。

天皇杯、皇后杯の都道府県順位でございます。本県は天皇杯では、2位の東京に、750点、皇后杯では330点の差をつけており、堂々たる完全優勝と、考えております。

本県の競技別の成績でございます。競技別天皇杯順位では、陸上競技の4連覇をはじめ、40競技中13競技が、競技別皇后杯順位では、30競技中8競技が、1位を獲得、うちサッカー・体操・バスケットボール・馬術・剣道・山岳・空手道の7競技が男女とも1位となり、中でも、剣道は、全種別1位の完全制覇を達成し、「躍進チームちば」の象徴となっております。

今回の輝かしい成績は、県が関係各機関と連携を図りながら、地元国体の日本一を目指して取りくんだ「選手育成・強化」の成果であるとともに、練習会場確保など関係市町村のご協力、

大会での県民の熱い声援，報道機関や地域広報による選手のモチベーションアップなど，まさに県民一体となったご支援のお陰であると考えております。

以上で，第65回国民体育大会の結果報告を終わります。

最後に，第10回全国障害者スポーツ大会について，ご報告いたします。

第10回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」が「ゆめ半島みんなが主役 花咲く笑顔」のスローガンのもと，10月23日～25日の3日間にわたり，本県で開催されました。毎年，全国から都道府県・指定都市の選手団およそ5,400人が参加する，国内最大級の障害者スポーツの祭典であります。

千葉県は，延べ229名の選手が出場し，金メダル145個，銀メダル48個，銅メダル23個の，合計216個のメダルを獲得しました。

千葉市は，延べ127名の選手が出場し，金メダル30個，銀メダル19個，銅メダル23個の，合計72個のメダルを獲得しました。

全国障害者スポーツ大会では，選手団ごとに点数をつけて総合成績を競う仕組みはありませんが，メダル獲得数は，66選手団中，千葉県は第1位，千葉市は第5位（政令市選手団中第1位）と，ともに過去最高の成績を収めることができました。

以上で，平成22年度各種大会の結果報告を終わります。

【質問等】 特になし

2 協議事項

○「千葉県体育・スポーツ振興計画」に基づく事業の取組について

(1)【戦略1～戦略3】

協議に入る前に，委員の皆様には本日の審議会の趣旨につきまして，ご説明申し上げます。

別添資料の，（仮称）第11次「千葉県体育・スポーツ振興計画」策定に向けてをご覧ください。

この後，協議をいただきます。現行「千葉県体育・スポーツ振興計画」に基づく事業の取組についての内容，また「千葉県体育・スポーツ振興条例」「千葉県総合計画」「千葉県教育振興基本計画」を含めて，新規「千葉県体育・スポーツ振興計画」策定に向けて，皆様から多くのご意見をいただきたいと考えております。

本日いただきましたご意見をもとにしまして，検討会議及びワーキンググループ会議におきまして十分な検討を加えてまいります。そして，来年度の審議会におきましては，7月に計画骨子案，12月に計画素案，そして平成24年2月に最終計画案のご審議をいただく予定になっておりますので，よろしくお願いいたします。

それでは，「千葉県体育・スポーツ振興計画」に基づく事業の取組についてご説明いたします。

まず，戦略1の「子どもたちの生涯にわたる健康とスポーツ環境を拡大する戦略」について，ご説明いたします。

最初に，いきいきちばっ子健康・体力づくり推進事業の，② いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」についてご説明いたします。

本事業は児童生徒の体力向上と社会性の育成を目的として，平成19年度より実施しているものです。

各学校で，子どもたちがクラスやグループで，7つの運動種目に取り組んだ記録を取りまとめ，HP上に公表するとともに，取組の優れた学校へ「学校賞」や「記録認定証」を授与するなどして，事業の拡大に努めております。

昨年度は、延べ328校が参加し、14,750件の記録申込がありました。これは、平成20年度と比較すると、年間参加校数で46校、記録申込総数で1,100件減という結果で、新型インフルエンザの流行に伴う影響と考えております。

また、本年度前期（4月から6月）中期（7月から12月）の状況は、延べ312校が参加し、8,819件の記録申請がありました。前期は船橋市立飯山満中学校が、中期は佐倉市立上志津小学校が「遊・友スポーツランキングちば大賞」を受賞しました。

今後も、研修会や会議等様々な機会に事業内容のPRに努め、コンテストの趣旨を一層周知させ、継続的に取り組む学校を、さらに増加させたいと考えております。

次に、学校体育の充実を図るの、②「体育の授業マイスター認定事業」についてご説明いたします。

本事業は、平成21年度からスタートしたもので、体育の授業において優れた指導力を有している教員を「体育の授業マイスター」として認定し、授業公開や、その指導技術を写真やDVD等に収め活用したり、近隣校の体育授業の支援をするなど、県下の小学校体育授業の改善に役立てるものです。

本年度は、昨年度認定した10名のマイスターに、新たに女性5名を含む8名を認定して、事業の充実を図っているところです。

本年度4月から11月末までの活用状況は、マイスターによる授業公開36件（授業参観者589名）、マイスターの授業を収録したDVDの活用566件（視聴者3,917名）、他校の体育授業や研修への助言や指導40件（対象者805名）、がありました。今後さらにマイスターの活用が高まるようPRに努めてまいります。以上で戦略1の説明を終わります。

次に、戦略2の「県民の健康・活力を高める戦略」について、ご説明いたします。

これについては、知事部局 健康福祉部の健康づくり支援課をはじめ、高齢者福祉課、障害福祉課が戦略に関わる事業を推進しております。

「県民一人ひとりの生涯を通じた健康づくり」を支援する取組として、平成20年3月に『健康ちば21』を改定し、『自分らしく、いきいきと暮らし続けるために、一人ひとりの健康力を育てよう』を基本理念に事業に取り組んでおります。

「県民一人ひとりの生涯を通じた健康づくりを支援する」事業の、① 身近で無理なく継続して取り組めるスポーツ環境整備事業、「ふさのくに歩いて健康マップ」ですが、県民が、生活習慣病予防や健康づくりのため、日常生活で気軽に運動に取り組めるよう、地域で利用しやすい歩きやすい道を選んで、歩行マップを作成しました。

楽しく安全にからだを動かすことができることから、多くの方々が、日ごろの健康づくりに活用しております。

「高齢者の健康づくりや介護予防を普及する」事業の、② 「老人クラブ活動を通じた高齢者スポーツの普及」をご覧ください。

高齢者の健康の保持・増進に関する、高齢者スポーツの普及については、「老人クラブ連合会への助成」を通じて、老人クラブの会員の健康づくりを支援しております。

③ 「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」は、60歳以上の高齢者を中心に、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることを目的として開催される、健康と福祉の祭典であります。

本年度は、20種目に149名の選手を派遣しました。サッカーでは、女性選手が1名出場し活躍しました。全国で唯一の女性選手ということから、女性の最高齢賞を受賞しました。

高齢者が生きがいを持ち、輝き続けることは、素晴らしいことだと思います。

「障害のある方々のスポーツ環境を充実させる」取組として、全国障害者スポーツ大会に、千葉県から430名を派遣し、第11回千葉県障害者スポーツ大会においては、4,681名の選手・役員が参加するなど多くの参加が得られました。

今後も多くの障害者が参加できる大会運営に努めるとともに、ボランティアの育成及び障害者スポーツの指導者養成に努めてまいります。以上で戦略2の説明を終わります。

続いて、戦略3の「地域のスポーツ環境を整備する戦略」について、ご説明いたします。

「地域の実情に応じた地域スポーツを振興する」取組としまして「広域スポーツセンター事業」について、ご説明いたします。

県広域スポーツセンターは、②「総合型地域スポーツクラブの育成・支援」を中心として事業に取り組んでおります。

特に、育成については、クラブ未設置の市町村に対する重点訪問を計画し、総合型地域スポーツクラブ設立のための情報の提供、市町村における設立に関わる課題の把握と対応策についての相談等、県内未設置市町村について、訪問を実施いたしました。訪問以外では、研修会開催による地域スポーツ団体等への啓発及び設立に必要な人材育成の支援等を行っております。

「新たな生涯スポーツ指導者養成活用システムを開発する」事業とも連携を図り、設立済みの総合型地域スポーツクラブに対する支援としての、クラブマネージャーや指導者育成に関わる事業や、県内総合型地域スポーツクラブの情報交換のための、クラブサミットの開催事業を行っております。

「スポーツを身近に感じる県民を増やす」取組の、①「スポーツ情報提供」事業としては、県教委のホームページにおいて、県内総合型地域スポーツクラブの活動紹介や、助成事業に関する情報及び総合型地域スポーツクラブ設立・運営に関する情報を発信しており、さらに、教育委員会広報「県教委ニュース」の中で、総合型地域スポーツクラブの活動紹介を、毎月掲載しております。

「県民のニーズに応える公共スポーツ施設を整備する」取組としまして、総合スポーツセンターの施設整備について、ご説明いたします。

平成22年度における総合スポーツセンターの主な施設整備は、

1点目として、老朽化により廃止していた水泳場を解体し、大駐車場整備工事が昨年9月に完了し、国体の陸上競技と閉会式におけるスムーズな運営に役立つとともに、国体終了後も、慢性的な駐車場不足が解消され、利用者の利便性が増し、利用しやすい環境整備ができました。

2点目は、陸上競技場に、車椅子用観覧席を70席増設しました。

3点目は、テニスコート改修で、砂入り人工芝8面の張替及びスタンド改修を行い、平成23年3月に終了する予定です。

次に、総合型地域スポーツクラブの育成・定着の状況についてご説明いたします。

平成22年度は、3つのクラブが設立され、今日現在で県内の設立クラブ数は、53クラブとなっております。また、平成22年度中に、設立が予定されているクラブは、4クラブであります。設立済みの市町村数ですが、今日現在で28市町（26市2町）となっており、全市町村中の割合は51.8%であります。

また、平成23年3月までに設立が予定されている、4クラブが設立すると、30市町（28市2町）に設立されることになり、全市町村中の割合は、55.5%となります。

目標とする100%を達成することは非常に厳しい状況ですが、引き続き全市町村に1つ以上のクラブ設立に向けて、努力してまいります。

最後に、広域スポーツセンターは、未設置市町村の地域が抱える課題解決の方策及び設立後のクラブへの支援等、具体的なプランを提示し、今後1つでも多くのクラブが設立していけるよう支援を行い、地域の実情に応じたスポーツ振興に向け、事業を推進いたします。

以上で、戦略3の説明を終わります。

協議 1

委員 質問を2つお願いします。1つは、各戦略に係る計上経費はどのくらいか。わかる範囲で結構です。

2つ目ですが、総合型地域スポーツクラブの全国の設立状況と、全国と比較した千葉県の達成状況はどうか。

事務局 1点目の各戦略に係る計上経費ですが、戦略2につきましては知事部局、戦略5につきましては、国体・全国障害者スポーツ大会局になりますので、教育委員会の関係する戦略について報告します。戦略1は、約1,200万円、戦略3は、約7億4,000万円、戦略4は、約3億8,000万円です。

2点目の総合型地域スポーツクラブの、千葉県達成率51.8%は全国でも低い方になっております。50%に達成していない県に、文部科学省は特別支援事業ということで、本年度も継続して実施しております。新規の文部科学省の達成状況は60%未満となっており、今年度末の達成状況も55.5%ですので、国の60%にも達成しない状況です。国の状況ですが、平均が71.4%になっており、60%未満の県がまだいくつかあり、文部科学省の助成対象になっております。

委員 国体で総合優勝したので、生涯スポーツの方も平均より上回るように頑張ってください。

委員 総合型地域スポーツクラブ数は多くあるけれど、未育成市町村は多いのか。

事務局 未育成市町村は、外房地域に多くあります。市町村合併との関係もあるかもしれませんが。市町村の施策としてスポーツ振興を位置付け、数多くのクラブを設立しているところと、未だに未整備の市町村があるのが実情です。

委員 全国健康福祉祭（ねんりんピック）のこれからの見通しはどうなっているか。

事務局 第29回大会（2016年）まで開催予定地も決まっております、今後も継続実施していく予定になっております。

委員 全国スポーツ・レクリエーション祭の、会場立候補が減ってきているよう聞いているがどうか。

事務局 来年度（平成23年度）は栃木県で開催されますが、文部科学省によりますと、平成24年度以降の開催地については、まだ未定であるとのこと。

委員 総合型地域スポーツクラブは、運動する機会を多く作ることで、子どもから高齢者までの健康・体力づくりを狙っている。大きな市で1つと小さな市で1つでは、基準値がどれだけ運動に参加する人々をカバーできるかが視点になる。ただ、県内の市町村にいくつあるかは意味がない。どのくらい運動人口を抱えるだけのカバーができるクラブなのか、活動が盛んな地域の子どもたち等の、体力や健康がどうなっているかのデータが出せれば、そしてPRできれば、なお啓発になる。

「遊・友スポーツランキングちば」の運動する機会の拡充は良いことだと思う。市内の学校に参加を呼び掛けている。4年目になるが、最初から参加している学校の子どもたちと、全然参加していない学校の子どもたちの、体力の状況や伸び具合のデータができれば、コマーシャルの材料になる。船橋市の例をとると、大穴地区の子どもたちの体力は割合高い。ただ、もともと高かったのか、総合型地域スポーツクラブができてから高まったかはわからないけれど、高いことは確かです。私はできたから高まったと決めつけているんです。だから、総合型地域スポーツク

クラブを作ってくださいと言っています。そういうデータができればコマーシャルの材料になる。

そこで、以上のようなデータが今現在あるかどうか。

事務局 総合型地域スポーツクラブの設立されている市町村と、「遊・友スポーツランキングちば」の取組の活発な学校等の、体力的なデータの比較検証までは現在していません。ただ、文部科学省の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力結果を見ると、千葉県は高い状況にあります。この結果と県が実施しております新体力テストの結果を比較検討するとともに、教育事務所ごとのデータの比較検討も、今後研究していきたいと考えております。

現在、平成22年度文部科学省委託事業である「全国体力・運動能力、運動習慣等調査に基づく子どもの体力向上支援事業」の分析を、国際武道大学の先生方を中心に進めているところであり、平成23年3月末までに結果が出る予定です。この結果も含め、各地域間の違いがどの程度あるのかも見ていきたいと考えております。

委員 データを検討することは大事であり、新規「千葉県体育・スポーツ振興計画」にぜひ活かしてください。

委員 昨年10月に文部科学省発表によると、小学校高学年レベルでの体力低下が下げ止まっている、特に走るといった項目について、多少改善が見られると言われていたが、本県でも同じような傾向があるのかどうか。戦略的に取り組んでいることが、子どもたちの体力低下防止や若干向上につながっているのかどうかの検証が、まだ十分になされていないかなと思います。小学校を見ていると、学校の体育の授業によって活性化されているよりも、子どもたちが大好きになった商品によって走ることが好きになった。これも子どもたちのスポーツ環境の充実につながっていると思いますので、こんな観点からの評価も必要だと思います。

もう1点は、部活動の充実で小中高の連携がありますが、小学校のところに部活動がありながら、同じ学区の中学校にはその部活動がないケースが非常に多い。小学校で始めることが、本当に中学校・高等学校へつながっていくのかどうかの検証がなされていない。どうやって小中高の連携を進めいくかが、まだまだ課題である。部活動加入率の全国平均は、中学校で70%強であり、高等学校で40%弱になる。中学校と高等学校の部員数に変わりはなく、中学校数よりも高等学校数が少ないので、当然加入率は低くなる。スポーツ環境づくりに、どの程度関係団体を含めた小中高の連携がなされているか確認したい。

事務局 体力低下の下げ止まりですが、昭和60年をピークにした低下傾向が、種目によって、向上・横ばいの状況になっています。千葉県データでは、ボール投げが弱く、反復横とびと中学校50m走が全国平均よりも高くなっています。今後も新体力テストデータをしっかり整理しながら、分析してまいりたいと考えます。

千葉県は、昭和39年から運動能力テスト等をすべての学校で実施しております。文部科学省の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力結果は、福井県が毎年1位になり、千葉県は3位～5位と上位にランクされております。福井県も長い歴史の中ですべての学校でのしっかりした取組がなされている結果だと考え、千葉県もこれまでの継続した取組の成果と考えます。

部活動の件ですが、なかなか条件整備といった小中高の部活動の連携は難しい面がございます。競技力向上の部分では、中高生の選抜した選手の合同合宿や地区別練習会を実施しております。しかし、学校単位での連携については、まだ十分機能

していないのが現状です。ただ今いただいたご意見を参考にして、今後取り組んでまいりたいと思います。

委員

マイスターに女性を認定していただいたことに感謝申し上げます。

「遊・友スポーツランキングちば」で頑張った子どもたちの写真や結果を、最寄り駅や千葉そごうなどに掲示し、一般の人々の目に触れるようなお知らせをすると、多くの方に理解がいただけるのではないかと。県民全体で子どもの体力向上の取組を盛り上げていけたら良いと思います。

文部科学省の「スポーツ立国戦略」でも、人材の好循環や連携を打ち出しているため、総合型地域スポーツクラブにおける地域の健康づくりも視野に入れていただきたい。千葉県も多くの総合型地域スポーツクラブが設立されているので、健康行政の方が総合型地域スポーツクラブを運動継続の場ととらえ、また、総合型地域スポーツクラブも、それを受けられるだけの態勢を整え、総合型地域スポーツクラブが地域の健康・体力づくりも担っていけるようになると良いと思います。

総合型地域スポーツクラブと学校との連携ですが、運動部活動の先生方に、研修会等で総合型地域スポーツクラブの情報を提供し、総合型地域スポーツクラブの意義や価値、取組等を学校側に理解してもらうことは大切だと思います。また、総合型地域スポーツクラブの指導者が学校へ、子どもたちが総合型地域スポーツクラブへ指導に行ってみたりすることで、人材の好循環につながっていくと思います。

事務局

「遊・友スポーツランキングちば」のPRの件ですが、大賞受賞の学校に赴き、実際の活動を見るとともに表彰を行い、その際の写真や学校の取組等を教育委員会のホームページに掲載しPRをしているところです。駅や街頭への掲示までは至っておりません。

委員

賞状授与の際に、千葉県ゆかりのメダリストやアスリートに渡してもらえたら、子どもたちも喜ぶし映像的にも映えると思います。学校やスポーツ関係者以外の一般の方にPRをしていくことで、子どもの体力について学校だけでなく、みんなで考えようというムーブメントにつながると思います。

事務局

総合型地域スポーツクラブの健康づくり関係の他部局との連携ですが、今回の審議会から出席していただいたことが契機となり、今後も十分な連携をとっていきたいと思います。

総合型地域スポーツクラブの学校との連携、学校職員への紹介、学校の理解についてですが、学校と地域との連携において重要な要素だと思いますので、貴重なご意見を参考にいたしまして、今後の取組に活かしてまいりたいと思います。

委員

千葉県教育振興基本計画に、幼児教育は入っていますよね。

学校関係はとても教育の積み重ねができており、学校職員の皆様も熱心に取り組んでいると思います。しかし、幼児教育はまだまだであり、問題点も多いと考えています。現在の体育・スポーツ振興計画に、幼児の身体づくりが含まれていないとのことですので、是非、幼児教育に係わる関係課等との連携を図り、幼児の身体づくりにも目を向けていただきたいと思います。

本審議会に出席していただくと同時に、担当者会議は行っているのですか。

事務局

担当者会議等を含む新規計画策定に向けての取組につきましては、後ほど説明をさせていただきます。

委員 是非新規計画の中に、幼児の身体づくりを入れていただくことで、県民の健康・体力づくりすべてを網羅することになると思いますので、よろしくお願いします。

事務局 千葉県教育振興基本計画における幼児教育に関する件ですが、3つのプロジェクトと14の施策の中で、プロジェクトⅢ チームスピリットプロジェクト 教育の原点としての家庭の力を高め、人づくりのために力をつなげる。【施策1】「親学」の導入など、家庭教育を支援する。(取組2) 幼児教育の充実がございました。

委員 私のところは保育園ですが、3年前から体操に力を入れております。子どもたちは生き生きとたくましくなっています。昨年11月に小学校の発表会に、年長30名が参加しました。小学校の先生方はびっくりされておりました。幼児期における身体づくりを計画的に進めていただきたい。そうすることが、いきいきちばっ子の育成につながると思います。

2 協議事項

○「千葉県体育・スポーツ振興計画」に基づく事業の取組について

(2)【戦略4～戦略5】

それでは、戦略4の「ちばの競技力を育てる戦略」について、ご説明いたします。

「ちばの競技力を育てる戦略」は、(1)「人づくり」「地域づくり」を重点化した競技力向上を目指すから(5)スポーツ振興関連団体を支援するまでの5本の柱を立て、各事業を展開しております。

さて、本県の競技力は、「ゆめ半島千葉国体」に向けた取り組みの中で、大きく発展を遂げました。

その原点は、今から11年前、平成12年ですが、本スポーツ振興審議会におきまして、「本県の競技スポーツの振興における問題点」として、中・長期的な計画のあり方や、競技種目別の強化システムの構築について、ご協議をいただいたことにあります。

そして、平成14年に「競技力向上推進本部」が設置され、国体に向けた取組が展開されました。

(本部事業)と記載されているものが、ご協議をもとにして、具体化された事業であり、全部で10の事業が柱の中にちりばめられております。

「ゆめ半島千葉国体」では完全優勝を達成し、県民に大きな感動を与え、大成功のうちに終わることができました。この成果を、一過性に終わらせることなく、本県の恒常的な競技力の維持・向上のため、「ちばの競技力を育てる戦略」を、更に推進してまいりたいと考えております。

そこで、来年度以降を見据えた事業の中から、主な3点についてご説明させていただきます。

1点目は、「人づくり」「地域づくり」を重点化した競技力向上を目指すの、①のA、「ジュニア選手強化事業」です。

本県では、ジュニア選手の発掘・育成・強化のため、強化選手を指定し、競技の特性や年代に応じた事業を展開してまいりました。各事業への取り組みは増加し、底辺の拡大が見られるとともに、ゆめ半島千葉国体では、少年種別男女とも1位を獲得、完全優勝にも貢献するなど、大きな成果を上げております。

今後は、ゆめ半島千葉国体で培われた土壌を活かし、未来のアスリートの継続的な発掘・育成・強化や、子どもたちのスポーツへの関心を高める取り組みの推進が、課題として挙げられます。

そこで、地区別練習会・中学生合宿などを踏襲して進めることに加え、新たな事業を展開してまいります。

具体的には、

- ①として、国体で活躍した選手を、学校や地域のスポーツクラブに派遣し、スポーツ教室や強化練習等を行う「国体選手活用事業」
- ②として、平成26年度に、東京・神奈川・山梨・千葉の南関東ブロックで開催される高校総体の主力となる年代（現在の中学校 1・2年生）を強化する「26総体強化事業」
- ③として、ゆめ半島千葉国体での会場市町と連携し、選手強化やスポーツ振興の拠点づくりを進める「千葉国体開催地を活用した拠点強化事業」でございます。

以上3事業を加え、5年から10年先を見越したジュニア選手強化を展開してまいります。

2点目は、②のA、県民体育大会開催事業でございます。

ゆめ半島千葉国体開催のため2年間休止しておりましたが、来年度から、第61回の夏季・秋季大会として再開します。ゆめ半島千葉国体の会場市町を中心に競技会場を配置し、また、参加者も前回大会と同規模の、約1万2千人を予定しており、地域スポーツ振興の核としての役割を期待しております。

国体開催を契機として、スポーツを通した「人づくり」「地域づくり」を、更に進めてまいります。

3点目といたしまして、④の「チームちば」支援事業について、ご説明いたします。

今年度まで、ゆめ半島千葉国体での優勝を目指して事業を展開してまいりましたが、来年度の山口国体では、6位以内入賞を目標として、事業の見直しを行います。

見直す内容は、招聘試合の縮小、加えて、関東ブロック予選が行われるため、期間中の強化及び山口国体直前の強化活動の縮小などでございます。しかし、6位以内入賞を目標とし、山口県での現地合宿や強豪県への県外遠征などは確保してまいります。

以上が事業についての説明でございますが、ゆめ半島千葉国体の大成功を活かし、関係各団体と緊密な連携を取りながら、「本県の競技力を育てる戦略」を展開してまいります。以上で、戦略4の説明を終わります。

昨年、開催いたしました「第65回国民体育大会」、「第10回全国障害者スポーツ大会」につきまして、多大なるご支援・ご協力をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。最後に、戦略5「第65回国民体育大会・第10回全国障害者スポーツ大会を成功させる戦略」の取組み状況についてご説明申し上げます。

初めに、第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」でございます。

去る9月25日、千葉マリスタジアムにおいて、全国から集まった大会関係者、観客など、約3万3,000人が参加し、ゆめ半島千葉国体の総合開会式を開催いたしました。

今回の総合開会式は、野球場の特性を活かし、式典前演技の出演者の皆さんや入場行進の選手団と、観客の皆さんが一体となったコンパクトで素晴らしい開会式であったと好評でした。

また、競技会場市町においては、水泳など会期前に実施された競技を含め、県内各地でアスリートの熱い戦いが繰り広げられ、特に、本県選手団は、目覚しい活躍を遂げ、天皇杯、皇后杯の両タイトルを獲得し、本県初の「完全優勝」を果たすことができました。

大会期間の前半は、雨の影響でソフトボールや高校野球など一部中止となった競技もありましたが、全体を通してほぼ順調に競技が行われ、大会期間中の参加者は延べ約69万人にのぼり、10月5日に「ゆめ半島千葉国体」は、11日間にわたる全日程を無事に終了し閉幕いたしました。

次に、第10回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」でございます。

10月23日、全国から集まった選手や観客など約1万3,600人が参加し、ゆめ半島千葉大会の開会式を幕張メッセで開催いたしました。

屋内での開閉会式は大会史上初めてであり、照明や音響を効果的に使用し、屋内ならではの式典が演出され、多くの方々からとても感銘を受けたとの声を聞いております。

また、競技は、千葉市をはじめ6市1町で、陸上など13競技を無事に開催することができました。参加された選手の皆様はベストを尽くし持てる力を存分に発揮していただいたことと思います。

千葉県及び千葉市の選手団は、この大会でも大活躍をし、大会史上最多となる290個のメダルを獲得し、3日間にわたるゆめ半島千葉大会は10月25日に閉幕いたしました。

両大会では、多くの県民の皆様のご協力により、花いっぱい運動や環境美化活動などを通して開催機運を盛り上げていただきました。

さらに、全国から集まった選手・監督をはじめとした多くの方々に対する、歓迎演技などへの出演や接客、選手団担当等のボランティア活動、郷土料理による心温まるおもてなしなどにつきまして、数多くの県民の皆様のお力をいただきました。おかげさまで、夢と感動に溢れる素晴らしい大会を開催することができたと考えております。

多くの方々のご支援・ご協力のもと、成功裏に終了した両大会の感動と思い出は、多くの県民の心にしっかりと刻まれたことと思います。

両大会のマスコットキャラクターとして大活躍した「チーバくん」は、大会の成功に大いに貢献してもらいました。また、県民の皆様から大変親しまれており、皆様の要望も強いことから、今後も末永く愛されるようこの1月から千葉県のマスコットキャラクターに就任し、引き続き千葉の魅力発信のために活躍しているところです。

このように、本戦略の目的である「両大会の成功」の達成により、本計画で想定した

(1) スポーツの振興、経済の活性化、地域の活性化の促進
そして

(2) ①障害のある選手がスポーツの楽しさを体験する

②国民の障害に対する理解が深まる

③障害のある方々の社会参加の促進

といった成果を充分にあげることが出来たと考えております。

以上、「第65回国民体育大会」及び「第10回全国障害者スポーツ大会」についてご報告いたしました。以上で説明を終わらせていただきます。

協議2

委員 ちばの競技力を育てる戦略で新規事業を展開するわけですが、平成22年度競技力向上推進本部事業予算は2億5,000万円。さらに税金をつぎ込む必要性はどのくらいあるのか。必要であるとしても、社会資本注入システムの検討も必要ではないか。ジュニア選手強化事業は、税金だけでなく社会・経済から支援されていることを、子どもたちに教えていくシステムの方が重要ではないかと思います。スポーツを愛好したり実施している人からお金を頂いて、ジュニアスポーツ教室や合宿の費用がでていることを、しっかり教育することが重要であると思います。トップアスリートが社会が応援する体制を行政が作っていただきたい。

事務局 貴重なご意見として受け止めさせていただきます。

委員 国体の大成功は、県の指導はもちろんですが、各競技団体が非常に努力したことも重要なことだと思います。現在、国も県も法人化が進められています。県の傘下団体である各競技団体を法人化する方向で指導したら良いのではないかと。

国体は、県費をあまり使わないで、民間からお金を集めて実施しようと知事に提

言しましたが、実際は県費をあまり使わないで成功したのでしょうか。

事務局 オフィシャルスポンサーで1億円を目指しましたが、実際は9,500万円19社です。募金で4億円を目指しましたが最終的には1億3,200万円、全国障害者スポーツ大会にダイドー生命から企業協賛として1億円、募金5億円の目標に対して、65%の約3億5,000万円でした。その他に、オフィシャルサプライヤー（物品提供）が28社、大会協力企業が32社と、多大な協力をいただきました。儲かる国体はできませんでしたが、3,022億円の経済波及効果があったと思っております。とにかく、多くの県民の皆様や企業のご支援・ご協力をいただいた、両大会だったと思います。

委員 大変だったと思いますが、千葉県の取組は好評でした。

2 協議事項

○新規「千葉県体育・スポーツ振興計画」の策定に向けて

それでは、新規「千葉県体育・スポーツ振興計画」策定に向けて、ご説明をさせていただきます。

県といたしましては、先ほどご協議いただきました、現行の第10次「千葉県体育・スポーツ振興計画」に基づく事業の取組の成果と課題に対していただきましたご意見を、今後の新規計画の具体的な取組の検討に、十分活かしてまいりたいと考えております

千葉県総合計画「輝け！ちば元気プラン」は、

「スポーツを通じた健康づくりへの関心を高めることで、生涯スポーツを振興します。」の目標のもと、

- 1 地域スポーツ環境整備
- 2 千葉の競技力の向上
- 3 「みるスポーツ」「するスポーツ」の推進
- 4 千葉の自然や恵みを生かした食育の推進と健康・体力づくり

が明記されております。

また、千葉県教育振興基本計画 みんなで取り組む「教育立県ちば」プランは、元気プロジェクト 施策5 フェアプレーの精神を育てるスポーツ、健康・体力づくりと食育を推進する中に、

5年間で実施する重点的な取組としまして、

- 1 体力向上を主体的に目指す子どもの育成
- 2 ちばの自然や恵みを生かした食育の推進
- 3 「みるスポーツ」「するスポーツ」の推進
- 4 人々に夢と感動を与える競技力の向上

が明記されております。

両計画の内容を十分生かしてまいりたいと考えております。

次に、昨年12月24日に公布されました「千葉県体育・スポーツ振興条例」について、簡単にご説明させていただきます。

本条例は、体育及びスポーツが県民の健康の保持増進、青少年の健全育成、地域社会の連帯感の醸成等に資することにかんがみ、体育及びスポーツの振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって県民の健康及び福祉の推進並びに活力ある地域社会の実現に寄与することを目的に制定されたものであり、体育・スポーツの振興に向けて、より一層の施策の推進に取り組むことができると考えております。

県の取り組みとして、

- 第6条 生涯スポーツの振興
- 第7条 子どもの体力向上と体育の充実
- 第8条 県民の健康の保持増進
- 第9条 障害者スポーツの振興
- 第10条 スポーツの競技力の向上
- 第11条 施設の整備及び充実

が規定されております。

本条例の内容を十分に生かし、関係課の皆様と協力し合い、子どもから大人、競技スポーツ選手やレクリエーションスポーツを親しむ人、障害者や高齢者など、県民一人ひとりのニーズや能力に応じて、スポーツや健康づくり運動が、習慣化されるような働きかけを推進してまいりたいと考えております。

施策ごとの目標の違いはあっても、基礎の部分に、『多くの県民の生活に、望ましい行動変容を生じること』を置きながら、それぞれの目標にそった計画を策定していきたいと考えておりますので、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

今後、本日いただきましたご意見を基にしまして、検討会議及びワーキンググループ会議を実施しながら、最終的には、千葉県スポーツ振興審議会において計画内容を審議していただき、平成24年3月策定を目指したいと考えております。

最後になりましたが、新規振興計画策定の関係で、来年度の千葉県スポーツ振興審議会は、7月21日（木）、12月21日（水）、2月3日（金）の計3回の開催を予定しております。

新規振興計画策定に向けての方針に御理解をいただき、審議会委員の皆様のご支援とご協力をいただきながら、取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

以上で説明を終わらせていただきます。

協議3

委員 国体が成功してうれしいことなのですが、国体はいつぐらいまであるのですか。後10年ぐらいは続くのであれば、体育・スポーツ振興計画も現在の考え方でよいと思います。もし国体がなくなった時に、都道府県対抗がどのような形になるのかを想定して、10年後のスポーツ振興計画、学校体育、部活動等を考えていかなければならないと思います。今後の競技スポーツや都道府県対抗のあり方のおおよそを教えていただければ幸いです。

委員 国体の基本的性格は、都道府県持ち回りの都道府県対抗で総合順位を競う大会である。現状では、開催地が7～8都県決定しています。東・中・西の3地区ローテーションで開催地を決めています。当分の間、10年ぐらいは現在の方式で実施すると思っております。

事務局 次期「千葉県体育・スポーツ振興計画」は、平成24年度から5年間を予定しています。千葉県教育振興基本計画は10年間、当面5年間の計画を示しています。千葉県総合計画は10年後の目指す姿、その中の3年間の計画を示しています。これから進めます次期「千葉県体育・スポーツ振興計画」は、平成24年度から5年間を予定しておりますので、本審議会を通じてご意見をいただきながら、評価をしながら進めていきたいと考えています。

- 委員 「千葉県体育・スポーツ振興計画」で、千葉県は体育が明記されているのは良い。他県の名称は、体育が取り除かれているので、是非千葉県は今後も残していただきたい。また、次期計画の中に、体育の充実はより強調して盛り込んでほしい。
- 委員 中学校・高等学校学習指導要領の改訂で、「スポーツ文化」いわゆる、スポーツについての歴史や文化の背景、言葉についての理解の推進が定められたので、スポーツ文化についての観点も必要と考える。
- 委員 千葉県の資源を生かしたアウトドアスポーツやスポーツツーリズム等は、子どもたちの体験活動や地域経済の活性化の可能性も含め、検討をしてほしい。
事業内容によっては数値目標を設定することで、成果がわかりやすくなるのではないか。そのためにも現在の、ゼロベースでの意識や実態調査が必要であると思います。
- 委員 全国障害者スポーツ大会で、千葉県ゆかりのメダリストやアスリートから、メダルを授与できたら良かったと思います。
- 委員 「遊・友スポーツランキングちば」の高齢者バージョンを作成し、介護予防教室等で取り組めるような種目を設定し、健康で寿命を終えられるようにしたい。
- 委員 トップアスリートのセカンドキャリアとしての活動の場の提供、クラブマネジャー養成研修会の充実を盛り込んでほしい。
- 委員 「するスポーツ」を支えるボランティアの育成。老人クラブ活動が減少しているので、どんな支援ができるのか検討が必要である。
- 委員 老人クラブは減少しているのか。
- 事務局 平成20年度は、3,353クラブ。平成21年度は、3,279クラブ。平成22年度は、3,196クラブと年々減少しており、会員数も減っております。
- 委員 総合型地域スポーツクラブの設立に向けては、首長、教育長、体育指導委員との連携が十分に必要である。
- 委員 新規計画策定については、「千葉県体育・スポーツ振興条例」をもとにして作成し、県を巻き込んで策定してほしい。
- 委員 新規計画策定の担当課はどこがやるのか。
- 事務局 「体育・スポーツ振興計画」策定は、体育課が行います。

以上